

カトリック六甲教会 教会報

2009

12

No.456



フィリピンでの待降節

片柳 (助任司祭)

これまで色々な場所で待降節を過ごしてきましたが、その中でも忘れることができないのは、1999年にイエズス会の修練者としてフィリピンで過ごした待降節です。

フィリピンでは10月頃から街中にクリスマスのイルミネーションが飾られ、クリスマス・ソングが流れます。わたしが住んでいた修練院でも、11月頃からキャロリングの練習やら、家の飾りつけなどクリスマスの準備が賑やかに行われていました。みんなクリスマスが待ち遠しくて仕方がないようでした。

そんなクリスマスの準備の頂点を迎えるのが、毎年12月16日から行われる「シンバン・ガビ」です。「シンバン・ガビ」というのは、その日からクリスマスまでの9日間、毎日朝5時頃から行われるミサのことです。毎日我慢して早起きし、朝の時間を神様に捧げることで、フィリピンの人たちはイエス・キリストを迎える準備をします。フィリピン全土で行われている習慣で、この期間、毎朝どこの教会も人で溢れます。

わたしは、毎週日曜日に通っていたサーパン・パライというスラム街の教会に9日間通うことにしました。その教会は修練院から車で30分かかる山の中にありましたから、わたしは毎朝4時に起きなければなりませんでした。

わたしの早起きは8日間、順調に続きました。ところが、9日目を迎える前夜、困ったことが起きました。シンバン・ガビのミサが終わったあと、教会の外で買って食べた揚げパンが当たって、お腹を壊してしまったのです。あと1日なんとかスラムのみんなと一緒にシンバン・ガビに出たい、わたしはその一心でお腹をさすり、神様に回復をお願いしました。

祈りが通じたのでしょうか、翌朝には微熱はあったものの腹痛は治まりました。わたしはボーッとした頭で車に揺られ、なんとか9日目のミサに出ることができたのです。そのミサのことは、きっと一生忘れられないでしょう。貧しさの中でイエス・キリストにすべての希望を託した人々の祈りが、聖堂を満たしていました。若者も老人も、お父さん、お母さんも、子どもたちも心を一つにしてイエス・キリストの誕生を待ち望んでいました。

毎年、待降節になるとサーパン・パライのみんなはどうしているかなと懐かしく思い出します。頼るべき財産も、技術も、学問もない彼らは、ただ神だけにより頼み、今年もひたすらイエス・キリストの誕生を待ちわびていることでしょう。それこそ、本当の待降節の過ごし方なのではないでしょうか。





みんなの広場



壮年会のバス遠足は、晴天の満貫なり

壮年会副会長 塚崎

イギリスに帰化したカズオ・イシグロの小説『日の名残り』は、大きな館を管理し、謙虚にして誇り高いひとりの老執事が美しいイギリスの田園を旅しながら、昔の思い出を語る名作だ。堅実な生活が、如何に心静かで穏やかな晩年の日々を約束するかという物語として、僕は読んだ。舞台を日本の赤穂・備前に移しただけの、実に美しい日を我々は共有し堪能したと思う。世話役がみな初体験の遠足で、準備に緊張し、何かと不行き届きが出たとしても、当初の予定を皆こなし無事に帰れたのは、協力的な参加者と天の采配・恵みに違いない。

下見の時、「一年で紅葉が一番映えるこの土日は、世界最古の庶民の藩校、閑谷（しずたに）学校の前の細い道は渋滞で動けなくなります。」と脅かされた。旅行当日、「備前焼ギャラリー訪問は、道路が混む恐れがあるので中止を覚悟しておいてください。」とバスの中で案内すると、「えーっ」というご婦人の方の抗議の念を含んだ悲嘆の声が上がった。しかし、僕が期待したように、前日からの冷たい雨が他の観光客の出鼻を挫く雨となり、終日渋滞の無い道を澄んだ大気の強い日差しを浴びながら走り、我々は元気いっぱい声を張り上げて、歌やゲームに興じるようになった。

十字の印のついた屋根瓦の赤穂教会でミサに授かり、日傘が欲しいという声を聞きながら歩く。日生（ひなせ）の静かな佇まいの海沿いにある食堂ビルのエレベーターを待ちながら、この辺りは牡蠣（かき）が旨いという話をしている横で、主任司祭が試食用の柿を食べているのに気づいた。楊枝で摘んで横の人に、僕に、そしてシスターにと配り始めた。初めこそ戸惑ったが、後ではちょっと見直した。

閑谷学校の櫓（かい）の大木の葉の目をみはる鮮やかな朱に見とれ、「来たカイがあった」と思わず僕は感嘆の声を漏らし、「生きていて良かった」とあるご婦人は話された。誠実な六甲の壮年たちには、日の名残りを越えた物語がこれからも用意されているようで、今日一日がよく似合っていたように思う。



赤穂教会



閑谷学校

参加者 68 名（神父 2 名と信徒 66 名）は赤穂教会で記念撮影

殉教地 鶴島（つるしま）



壮年会のバスツアーのコース赤穂教会でミサに与った際、岡山教会から来られた信徒がミサの後、我々のために「鶴島の殉教」について話された。

鶴島とは、我々が昼食のため立ち寄った日生（ひなせ）から船で20分くらいの日生諸島に浮かぶ小さな島で、「海上タクシー」と呼ばれる船をチャーターしなければ行けない。そんな島「鶴島」は、キリシタン流刑の地だったのです。明治時代の初めに、長崎から113人が流され、17人がこの土になったと伝えられています。当時は無人島で、流刑者たちは島の開墾と脱走防止のため流されたのでした。艱難辛苦に耐えかねた50人あまりの改心者は、絶望と良心の痛みのために自暴自棄になったと伝えられています。そんな中で子供達の美しい信仰も語られています。親が改心しようと思うと、五歳程の子供が「地獄へ行くのはいや。助けて！」と泣いて大人にすがりつく。その姿を見て、親も踏みとどまるようなことが何度もあったそうです。

その後、欧米の在日公使の働きやキリシタン弾圧に対する各国世論に押され、明治6年鶴島の信徒も政府から帰国の命令が下り、やっと陸路で長崎浦上へ戻れたそうです。

楽しいバスツアーの中で、深く私の心に残るお話でした。（蛭田）

混声合唱団がやってきた！

平成21年10月31日、「カトリック六甲教会混声合唱団」の皆さんに特別養護老人ホーム「うみのほし」まで来て頂き、各フロアで美しい歌声を聴かせて頂きました。毎年この時期に来て頂いているので入居者も来られる前からとても楽しみにされていました。今年も懐かしい歌に合わせて一緒に歌ったり、手・足でリズムを取ったりと、皆さん笑顔だったのが印象的でした。どうもありがとうございました。また来年もよろしくお願い致します。（特別養護老人ホームうみのほし 木川）



六甲アイランド地区会 報告

六甲アイランドでは毎年春と秋に地区会を行っています。

今回は11月21日（土）pm2時からいつものように本下様のお宅で安芸神父様にご出席いただき、地区会を開催しました。安芸神父様にごミサをあげていただいた後、茶菓をいただきながら、幹事から先般開催された地区会世話人会の内容を報告するとともに、世話人会で配布された名簿に記載された方々一人ずつの動静確認を行いました。コーディネーター橋岡 尚美さんにもご参加いただき、いろいろとアドバイスをいただきました。参加者全員が「同じ地域に住んでいる信徒たちの交わりを深めていくことは有意義である」との認識で一致しました。（柗木）



「祈りの道場」に参加して

今回はルカ福音書における、イエス様の公生活の後半「エルサレムへ向かう一回限りの旅」からのメッセージを読み解き、英（はなぶさ）神父様のご指導のもとに黙想をしました。

英神父様の「イエス様の道はどういうものであったか。自分はその道に従って行くと言えるのか、非常に難しい箇所」との言葉通り、イエス様が決意し、エルサレムへの道を妨害に会いながらも突き進んでいく姿は、時に厳しく、その黙想を自分の実生活まで引き寄せるのは困難に思えました。

「金持ちとラザロ」、「やもめの献金」のたとえ話から神父様の講話を受け、執着の不自由さ、とらわれが強いと感じることが困難な神様の恵みのゆたかさに思いを馳せました。

この日はお天気が良く、黙想を深めるために向かった屋外は、暖かい陽射しに包まれていました。そしてそこでの祈りと対話の中で見つけた、自分が捧げるレプトン銅貨を握り締め、黙想後のミサへと臨みました。

このような機会を与えて下さった、英神父様、そして養成部の皆様に、感謝の気持ちでいっぱいです。

(松島)



広島錬成会を終えて

11月22日(日)～23日(月)、片柳神父様と共に、青年会メンバー8名で広島へ錬成会に行ってきました。青年会として遠出をし、錬成会を行うのは久しぶりでしたので、みんな行きの新幹線の中からドキドキワクワク☆普段なかなか話せないお話にもたくさん花が咲きました。

1日目は尾道を散策した後、大久野島という所にある毒ガス工場を見学しました。大久野島とは忠海という小さな港からフェリーで10分ほどのところにあります。この島は、毒ガス製造工場が建てられた1929年から1945年の敗戦まで、「秘密の島」として地図からも消されていた所ようです。私たちも今回初めてこのような場所がある事を知り、改めて戦争の恐ろしさを感じ、毒ガスにより残虐された人たちの多さに驚きました。毒ガス製造・毒ガスによる殺人という忌まわしい歴史を繰り返さないよう、これからも皆で祈り続けたいと思います。宿泊は庚午(こうご)カトリックセンターを利用させていただき、清水神父様にもお会いすることができました。

2日目は原爆ドームを見学し、秋の宮島に行きました。紅葉は色付き、体いっぱい自然を感じる中で、全てをお造りになられた神様の偉大さを肌で感じる事が出来ました。

1泊2日という短い時間ではありましたが、一人ひとりの心の中は多くの恵みで満たされ、神様そしてあなたを大切に思う人は、いつもすぐ近くにいる！と感じることのできた錬成会でした。

(村田)



壮年会黙想会

11月22日(日)、松村主任司祭のご指導のもと主聖堂で黙想会を実施。壮年会員以外の方若干名を加え29人が参加されました。松村司祭の2回にわたる御説教のあと黙想、そして最後にベネディクションを行い、終了後イグナチオホールで懇親会を行いました。

松村司祭からは、『ホセア書』(11:1-4) および『詩編』(16:7-11) をもとに、黙想に臨む姿勢などについてご指導がありました。「神へのおねだりよりも、神の恵みを感じることが大切、今日一日更には自分が今まで歩んできた道を思い起こし、その中に神の働きを感じることができるように」との貴重なアドバイスをいただきました。

2時間という比較的短時間の黙想会ではありましたが、アンケート内容に見られる通り参加者の皆さんからは好評を博しました。今後ともこのような黙想会が持てれば良い、と思っています。

なお、今回の黙想会実施に当たっては、全体の企画進行を壮年会副会長亀田 博史さんに、ベネディクションのオルガン演奏を三浦 優子さんにご担当いただきました。(柎木)



七五三の祝福

11月15日、日曜日11時のミサで、「七五三」の祝福がありました。もとは神社で子供が健やかに育つよう、お祓いを受けるものですが、子供の成長を願うのは古今東西ごく当たり前のこと、教会で「七五三」を祝うのも何の抵抗もなく受け容れられていると思います。この日も晴れ姿で集まった三歳、五歳、七歳の子供たちは、本当に可愛らしく、ご両親の愛情をたっぷり受けてすくすく育った様子を察することが出来ました。ミサの中で祝福をいただいた子供たちがこれからも真直ぐに成長していくことを心からお祈り致します。



この日、典礼は世の終わりを考えさせるものでした。片柳神父様は吉村光基リーダーを助手に、お説教の中で寸劇を演じ、神様には真直ぐに従わなくてはいけないこと、我がままを言うてはいけないことを話されました。子供たちの心にも、きっとしっかり刻まれたことでしょう。(阿部)

秋のチャリティバザー

11月8日(日)秋晴れの下でチャリティバザーが行われました。収益金は**1,017,117**円となりました。今年も行事部中心に、壮年会・婦人会・青年会などが一体となって、準備と販売を担当しました。





クリスマスコンサートのご案内

来る12月13日(日)14時より六甲教会聖堂におきまして「クリスマスコンサート」を開催いたします。このコンサートは1995年の震災後より、練習の場所をお借りして音楽活動をさせて頂いておりますカメラータ神戸が六甲教会への感謝の気持ちから始めたものでした。その後、六甲教会混声合唱団・ゆりかごの会・一般有志の方々も参加し、「メサイア」の演奏を中心にしたクリスマスを祝う大きな輪になりました。

「真のクリスマスの趣旨を共に理解し、その精神を活かす」という精神を学びながら、毎回、有意義で楽しい練習を重ねております。年々演奏レベルは充実してきており、本年は更にひと味違うメサイアをお楽しみ頂けるのではないかと自負しております。

どうぞ皆様お越し下さい。お待ちしております。

クリスマスコンサート実行委員会 船井
高原

記

- 日 時： 2009年12月13日(日)14時 (開場 13時30分)
- 場 所： カトリック六甲教会聖堂
- 曲 目： クリスマスキャロル
ヘンデル作曲 「メサイア」



クリスマスキャロリング



昨年、神戸市民クリスマス委員会企画の下、神港教会・住吉教会・六甲教会の3教会合同でキャロリングをJR六甲道駅前で行いましたが、今年はそれがありません。大変残念に思い、教会学校ではクリスマスの精神『希望』を伝えるためにキャロリングを行うことを企画致しました。

世の中は憂鬱な暗い状況が続いています。子供たちの歌声で、ささやかではありますがイエス・キリスト誕生の喜びと希望を伝えればと思っています。スケジュールを下記へ記します。時間がございましたら、JR六甲道駅前ロータリーまでお越し下さり、子供達を励まして頂けましたら嬉しいです。ご声援、宜しくお願いいたします。

★ スケジュール

- ・ 日 時：2009年12月12日(土)
 - 13:30~14:00 第1回公演
 - 14:00~14:15 休憩
 - 14:15~14:45 第2回公演
- ・ 会 場：JR六甲道駅前山側ロータリー



昨年実施したキャロリングの様

∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞ **各部だより** ∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞



婦人会

12月4日(金) 初金ミサ後婦人会例会

テーマ:「教会の明日を考える」

松村 信也 神父

(イグナチオホール)

青年会

12月13日(日) 12:30 定例会(助任司祭室)

内容:「青年会クリスマス会」について

「新年会」について

分かち合い

20日(日) 19:00 青年会クリスマス会

(イグナチオホール)

27日(日) お休

典礼部

・クリスマス、新年ミサの典礼当番表を作成中です。出来上がり次第、聖堂入口に掲示いたしますので奉仕者の方はご確認ください。

・今年は、クリスマス夜半ミサの歌集を新たに作成します。印刷部数は600部です。

作成部数が多いため、印刷と製本作業をお手伝いいただけると大変助かります。

12月19日(土) 9時~12時、イグナチオ・ホールで行いますので、是非ご協力をお願いいたします。

教会学校

12月5日(土) 通常クラス

12日(土) JR六甲道駅前キャロリング

13日(日) 子供と共に捧げるミサとJ・K
クラスはありません。

19日(土) クリスマス会・終業式

24日(木) クリスマスミサ 16:30
(子供と共に捧げるミサ)



《 お知らせ 》

★ 社会活動部より★

12月2日(水) 10時 手芸の集い 於: 第1・2会議室 どなたでも参加ご自由です。

12日(土) 10時 炊き出し 於: イグナチオホールお台所

小野浜グラウンドにて配食やおじさん達のお話し相手だけでもOKです。

20日(日) 9時ミサ後 ミニバザー 於: イグナチオホール

お弁当・食料品・手作り作品等の販売

23日(水) 9時30分 ともしびケーキづくり(お台所)

24日(木)

※ 「越冬越冬冬の炊き出し」は、例年通り東遊園地にて10時より
カトリックの当番日は1月1日(金)と5日(火)です。

ベタニアの集い

六甲教会では主日の御ミサに自力で来られない方のために、送迎付きで
奇数月の第3木曜日に聖体拝領式と茶話会を行っています。

参加ご希望の方は事務所にお申し込み下さい

グアルディーニ「ドストエフスキーを読む」

—五大小説の人物像における宗教性について—

(小松原 千里 訳)

2008年11月初版 未知谷発行

本書はロマーノ・グアルディーニ『ドストエフスキーの作品における宗教的人物—信仰の研究—』の翻訳である。著者グアルディーニ(1885-1968)は、イタリアのヴェローナに生まれ、後にドイツに移住した。1905年フライブルク大学でカトリックの神学の研究に従事し、1910年にカトリックの司祭の叙階を受けた。わが国では宗教哲学者として、特に『パスカル』『ソクラテス』などの著作を通してその名を知る人は多い。

本書はドストエフスキーの『罪と罰』(1866)、『白痴』(1868)、『悪霊』(1871)、『未成年』(1875)、『カラマーゾフの兄弟』(1880)の5作品の研究です。本書の特徴はドストエフスキーの語りをよく聞くことにあり、そのために作品から豊富に引用がなされています。よく聞くこと、このことによって聞く者の思索は自ずから展開し、形成されていきます。したがって、本書の場合はドストエフスキーその人の研究というよりも、むしろドストエフスキーが創造した人物たち、それも神の眼差しの元で生きる人物たちとの出会いの場が準備されます。読書は読み進むうちに、自ずから作中人物が実在する人物であるかのように、いつしか作品の世界を現実の世界として著者とともに経験することになります。

それは魂の経験です。著者はこれを「ドストエフスキーとの対話」と言っています。

数多いドストエフスキー論の中でも本書は得がたい研究だと思われま

す。(小松原)



言葉

昔買った、外山滋比古「日本語の個性」(中公新書 1976年)という本が手元にある。33年前の出版である。十年一昔と言うから昔むかしの本である。

その中にこんなことが書いてあった。『家康が、人生は重き荷を負って遠い道を行くようなものだった。こういう言葉をどれだけ頭の中でわかつたつもりになっても、それは絵に画いた餅ほどの意味もない。重い荷物を持つという実感がない。遠い道を行くのは当然クルマでしょうね、飛行機ですか、などという連中の中には、家康の言葉は比喩としても成立しないかもしれない。』

神様が人間となつてご自身を現されたのは2000年も前、地球の片隅の点に過ぎないパレスチナの一部、30年あまりの間だけであった。その間に人となられた神イエズス様が教えられたのは、その時代のその土地に生きていた人々に向かって、その教えがその時代その場所にとどまらず世の終わりまで変わることのない教えでありながら、彼らが分かる言葉とたとえで語られたものが今に伝えられているのである。その教えを時代の隔たった今の私たちが実践するには、今の私たちの生活の何にどう適用すればよいのかを知るために福音書の言葉やたとえを現代の言葉やたとえにいわば翻訳する必要があるのではないか。

冒頭に掲げた本のなかに「宗教と言葉」と題する1章がある。その中に私たちにも重要な示唆を与えていると考えている。最近の教会の文章や著作には世上日常使われている用語によっていることが多くなった。その結果、「天地の創造主全能の父」である「天主」がお客様やキツネと同じ「神様」になってしまい、最近の信徒の中には「神」に対する意識がかなり曖昧になっている例を少なからず耳にする。

「聖徒の交わり」「共同体」という用語についても同じ現象が見られる。

教会が用語に世上の用語を利用する意図は承知しているつもりだが、現実にはあまりにも安易に考えているのではないか。牧者である司祭が少なくなって信徒が自分で群れから脱落しないようにしなければならなくなった現代では、用語の重要性を深刻な問題として意識する必要があるだろう。戦前時代、教会は信仰の真を現すために用語には今日に比べると比較にならないほど神経質であった。言葉について「昔むかし」のこの古い著書を読んでもみることも意義があると思う。言葉は宣教にも決定的な影響力があることを忘れてはならない。我々はずっと言葉に神経質になってもよいのではないか。

(ヨハネ 三好)



第51回 神戸市民クリスマス 12月17日(木) 17:30~

★ キャロリングに参加しませんか！

今年のメイン会場は「日本キリスト教団 神戸栄光教会」です。17:20 北野町広場から神戸バプテスト教会、カトリック神戸中央教会、JT神戸支店前経由メイン会場まで教会や街角でクリスマスキャロルを歌います。(北野コース)

(詳しくはパンフレットや聖堂のポスターをご覧ください)

多くの方の参加をお願いします。

★ ケーキ・菓子類を焼いて納品して下さいませんか！

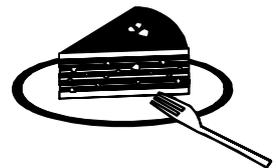
来場された方に、「ホッと」していただく企画として、パウンドケーキ・ブラウニー・マドレーヌなどの焼き菓子を切り分けて提供致します。

皆様のご協力で500人分くらい用意出来ればと願っています。

(クリームなどのデコレーションはご遠慮下さい)

問い合わせ：神戸市民クリスマス委員会

Tel 078-241-7201



12月の予定

8	火	無原罪の聖マリア(祭日)[六甲教会保護者の記念日]	7:00 10:00 ミサ
11	金		10:00 共同回心式
12	土		13:30 教会学校のキャロリング(JR六甲道ロータリー)
13	日	待降節第3主日	10:15 小教区評議会
			17:00 海星病院集会祭儀
14	月	聖ヨハネ(十字架の)司祭教会博士	
17	木		市民クリスマス(栄光教会)
19	土		14:00 教会学校終業式とクリスマス会
20	日	待降節第4主日	12:30 中高生会クリスマスコンサート
			17:00 海星病院集会祭儀
24	木	クリスマス・イブ	16:30(子どもと共に) 19:00 21:00 ミサ
			17:00 海星病院聖堂のミサ
25	金	主の降誕(祭日)	7:00 10:00 ミサ
26	土	聖ステファノ殉教者	
27	日	聖家族(祝日)	
28	月	幼子殉教者	
29	火	主の降誕第5日	
30	水	主の降誕第6日	
31	木	主の降誕第7日	24:00 新年のミサ

広報部員のつぶやき

街にはジングルベルの曲が流れ、商店街はクリスマスのイルミネーションで飾られている。この時期のいつもの光景を眺めながら、ふと日本のクリスマスはいつ頃から始まったのだろうかと思った。

1549年(天文18年)フランシスコ・サビエルが日本に上陸し、その年に降誕ミサを行ったのが日本での最初のクリスマスだといわれているが、記録に残された最初のクリスマスは、1552年(天文21年)に山口で宣教師コメス・デ・トルレスたちが司祭館に日本人信徒を招いて、クリスマスの祝いを催したのが始めとされている。

しかし、日本のクリスマスは時代の変遷を経て、まさしく今では年間の主要な祭事の一つとなり、商業ベース主体の行事として位置づけられている。多くの子ども達にとって、キリストのことを知らなくても、サンタクロースが何をプレゼントしてくれるかが最大の関心事になっている。このように日本において、クリスマスから宗教的要素が消えてしまった。

そんな中で、今年も心静かに、喜びを持って待降節をお迎えし、キリストの降誕の意味を多くの人たちと分かち合いたいと思っている。

(T・H)



※ 教会報12月号以外に、「クリスマス特別号」も発行致します。宣教活動などにもご利用下さい。

教会報1月号の発行は、12月27日(日)です。 編集会議は12月20日(日)です。 記事原稿は、12月13日(日)正午までに信徒会館 受付へご提出願います。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電 話 078-851-2846 発行責任者 松村信也 神父 編 集 広 報 部
--	---